

選択科目（地理歴史） 世界史

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 前近代中国における「漢」王朝	記述	20	80分
II 中国における儒学の展開	記述	20	
III 13世紀の西ヨーロッパの歴史	記述	30	
IV マー＝ワラー＝アンナフルを中心とした歴史	記述	30	
合計		100	

【出題の基本方針】

高等学校における標準的な学習により世界史の知識を習得しているかを問うため、基本的に教科書・用語集・資料集に記載されている範囲から出題した。また、大学での授業を理解するにふさわしい文章読解力と論理的思考力が身についているかを試すため、リード文の内容を正確に理解した上で解答する形での出題を心がけた。

【学習のポイント】

- ある歴史上の出来事について、それが発生した直接的な原因だけでなく、それが発生した歴史的背景、さらにその出来事が次の歴史展開にどのような影響を与えたのかについてもよく理解しておく必要がある。歴史を流れとして理解するためには教科書を何度も読み返した上で、教科書より少し詳しい参考書を読むのがよい。
- 世界史の学習に際して、ある時代・地域の歴史展開を地理的にイメージできるようにしておくことも重要である。教科書などを読みながら図版でその地理的展開を確認するとイメージを形成しやすい。
- 世界史学習そのもののポイントではないが、受験本番で問題を解く際には問題文をしっかりと読み込むこと。世界史の出題では、問題文全体の内容理解を前提として設問（空欄）を考えさせるという出題を心がけているので、空欄の前後だけでは正答にたどり着けないことも多い。文章読解力は大学入学後に最も必要となる学力の一つでもあるので、日頃から内容をしっかりと考えながら文章を読む練習をしておくように。